

# わーるど

第10号  
2004. 10. 1

## 5カ国10人の留学生が 稲美町にホームステイ!



ふれあい交流「いなみ野の里」

▲左から、シカ(モンゴル)、メンデー(モンゴル)、アン(ルーマニア)、デニス(オーストラリア)、オユナ(モンゴル)、オス(オーストラリア)、スー(マレーシア)、サムウェル(ナイジェリア)、ハキーム(ナイジェリア)、バスカ(モンゴル)

### ●会長あいさつ

#### わが町を国際交流の場に — 協会の創立元年にあたって —

以上、本年度の新しい活動例を述べましたが、できるだけ大勢の方々へ交流参加を勧めたいと思います。住民レベルの小さな交流は生きがいを感じて暮らす町づくりの第一歩だと確信するからです。

(一) 初めての「英会話教室」は旅行英語をテーマにこの九月に開講することになりました。受講生十五名は出なほしの学習につき、リー・コンダ先生(オーストラリア)から指導を受けています。そのために、友達づくり、自己啓発、学ぶ楽しさを目標に頑張っています。

(二) 初めての「英会話教室」は旅行英語をテーマにこの九月に開講することになりました。受講生十五名は出なほしの学習につき、リー・コンダ先生(オーストラリア)から指導を受けています。そのために、友達づくり、自己啓発、学ぶ楽しさを目標に頑張っています。

(三) 中学生海外派遣事業(オーストラリア)は本年度から始まり、毎年行く予定です。参加生徒からは、もう一度来年訪問してみたいという声を聞いています。(詳細は広報いなみ10月号特集)



稲美町国際交流協会  
会長 栗内 捷之

「ボランティアで国際交流をやりたい」「語学教室や日本語教室を町でも開いてほしい」「懸案の中学生海外派遣をぜひ本年度こそ実現するべき」という様々な要望をかねてより頂いてまいりました。めでたく、この四月二十九日に稲美町国際交流協会が発足し、ここに①ボランティア活動、②英会話教室、③中学生海外派遣事業の順に、新しい取り組みの一端を報告いたします。

### 外国料理教室 「お父さんとオーストラリアのケーキを作ろう！」

6月19日(土)、外国料理教室「お父さんとオーストラリアのケーキをつくろう！」を開催したところ、多数のご参加をいただきました。

お父さん、お母さんとケーキを作る子どもたちのその明るい表情に、講師をしていただいたキャロリン先生も楽しめました。



福田 由美  
ラムトンがとってもおいしかった。  
金原 和香菜  
チョコをつけるときちょっときもちわかったけど楽しかった。  
西川 嘉彦  
待っている間の絵本の読みかきせもあってよかったです。



浜崎 徳子  
楽しく子どもと過ごす事が出来ました。同じテーブルの人ともいろいろお話できてよかったです。

### 参加者募集

#### Let's have fun at Halloween Party! ハロウィーン・パーティのご案内

みんなでハロウィーンを体験してみませんか?  
当日は、播磨町の姉妹都市であるアメリカのライマ市から高校生のお兄さんお姉さんが来日されており、一緒に遊ぶことができます。  
ぜひ仮装して参加してね!

日 時 10月30日(土) 10:00~11:30  
場 所 播磨町いきいきセンター3階 大会議室  
参加費 300円  
対 象 5才以上の子ども(定員70人)  
申込み先 播磨町国際交流協会 0794-35-0356



### 編集後記

「わっ!活字が小さい。」  
刷り上がった通信を見ての感想でした。そうなんです。今回はかなりの量の記事を載せてしまいました。  
留学生がホームステイで出会ったたくさんの方々の思い出を習ったばかりの日本語で一生懸命書いてくれました。できるだけ全文を載せたいという思いが今回の活字の大きさになりました。書面を離しながら、近づけながら最後までよんでいただけたらうれしいです。(M)

### 会員募集

#### あなたも会員になって、 国際交流に参加しませんか!

21世紀にふさわしい稲美町の国際交流を進めるため、稲美町国際交流協会の会員を募集します。多くの方のご加入により、活気があふれ、心と心がふれあう協会にしたいと思いますので、ご賛同をお願いします。

なお、会員の皆様には、各種イベントのご案内、イベント参加費の割り引きなどを予定しております。



#### ●年会費

- ・個人 1口 1,000円(中高生は500円)
- ・家族 1口 2,000円(同居)
- ・団体、法人 1口 10,000円

ご加入いただけます方は、お手数ですが協会事務局までお問い合わせください。

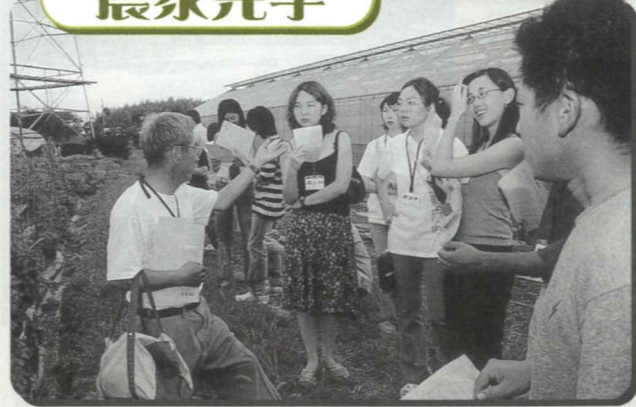
### 気軽にできる国際交流ボランティア

海外旅行から帰ってきたときに使い切れなかったコイン。今度その国へはいつ行くことやら…。そんな外国コインを国際交流協会では集めています。集まった外国コインは『ユニセフ外国コイン募金』に送り、途上国の子どもたちの支援活動に使われます。役場企画課に設置している募金箱または企画課まで郵便で送ってください。

※外国コインは日本のお金と違い、現金書留で送る必要はなく、封筒などに入れて普通郵便で送ることができます。

〒675-1115 稲美町岡岡1-1  
国際交流協会事務局(役場企画課内)  
外国コイン募金係あて

### 農家見学



野菜を作るじきではないからちょっとざんねんでした。(メンデー)  
大きい畑をおとうさんとむすこさんの二人だけでできることをびっくりしました。(スイカ)

# 楽しかった8日間!!



### 小学校交流

小学校の生徒たちといっしょに歌を歌ったり、ゲームをしたり、万華鏡を作ったりしておもしろかったです。ちょっとつかれましたが、皆でいっしょに笑っておもしろかったです。(スイカ)

小学生達と一緒に遊んで、話して、万華鏡を作りました。PTA達の作った食べ物は美味かった。この交流行事は永遠に忘れない。本当に「一期一会」！(オス)

「外国の人は少し苦手だなぁ」と思っていたけど、おもしろい人ばかりだったのでたのしかったです。(梅田 貴大)

初めていろんな国の人と交流して、すごくいい思い出ができました。また、交流した人たちと会えたらいいなと思いました。(上田 智代)



### 老人会交流

自分でスリッパをつくるので、本当におもしろかった。老人会の人とはとても親切だからすばらしかった。(アン)

老人会の人たちは私たちに日本のスリッパの作り方をおしえてくださいました。スリッパをつくりながらたくさん話しました。おもしろかった。(オユナ)

老人会の人と話せた時、うれしかったです。それに、自分でくつを作ったことは、とても楽しかったです。(スー)



### ふれあい交流会

稲美町について、色々な事を教えてくれた。最後の雅楽は私の初めて見るものでした。これは“日本の宮廷音楽”の粋を超えている。(オス)

皆の名前を覚えるのは難しくても皆とあいさつすることは楽しかったです。雅楽を見たことないからすごくきれいな音楽を聞いて楽しみました。(デニス)

ふれあい交流会はよかったです。なぜなら私は日本の雅楽をみたりおいしいものを食べたからです。(ハキーム)



### お別れ会

みんなでお別れにふるさとを歌いました



### 中学生交流

たのしかったです。ゲームと食べ物と音楽などがありました。中学生にはプレゼントをもらいました。(サムウェル)

中学生たちは私たちが喜んで迎えてくれました。私たちに音楽をひいてくれた。ほんとうに上手だ。私はこの日をいつまでも覚えていると思います。(オユナ)

今日はとてもいい体験ができ、楽しかった。とくに、一緒に食事したのが楽しかった。最初は話せなかったけど、留学生の方がしゃべってくださったおかげで緊張もとけた。(前田 晶子)

うまく交流できるかなぁと思ってたけど、意外と楽しくゲームや会話をできて良かった。こういった交流は将来や異文化をわかちあうのに対して本当に良かった。(丸山 祥麻)



### 万葉茶会

長い間すわったので、足が少しだけ痛かった。その時、一期一会という言葉を知って、本当だと思いました。(バスカ)

“一期一会”やお茶の作法などを教えてくれた。もう一つの日本文化を知れて楽しかった！(スー)

普段は外国人と話すことが出来ないのも、とてもいい経験が出来ました。楽しかったです。(福原 朋恵 東播磨・茶道部)

最初はなることかと心配したけど、かなり上手くいってよかった。みんな良い人ばかりで話はずんだ。(小南 知世 東播磨・ESS部)



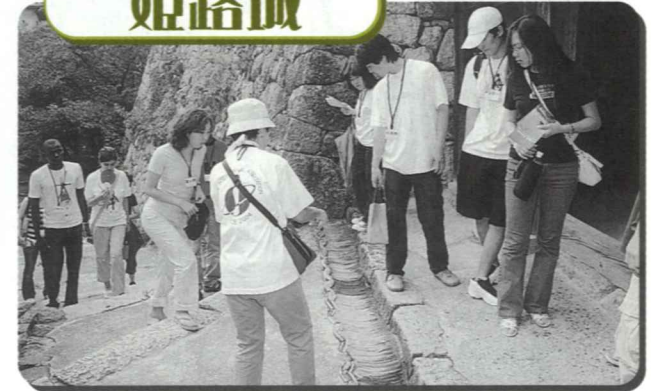
### 歓迎会

稲美町に来た時、歓迎会にびっくりしました。とても良かったです。かわいい子どもたちがダンスをしてくれました。(アン)

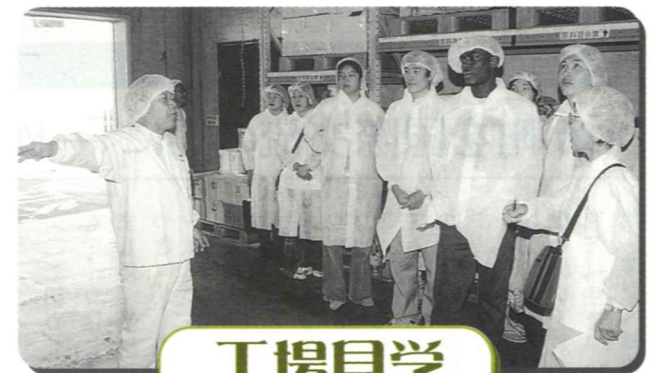
歓迎会の時、初めて日本のわさびを食べることができました。お母さんとほかの日本人と話してとてもよかった。(バスカ)

稲美町は静かなところだと思いました。それからたくさんの田んぼがあるまちだと思いました。(ハキーム)

### 姫路城



姫路城で日本の文化を学びました。



### 工場見学

見せてもらったビデオは面白くてオーストラリアが出てきたから嬉しかった。機械は高等技術で、チーズはオーストラリアから輸入してるのにびっくりした。(デニス)

日本ではチーズを作らないと思っていました。Q.B.Bという工場を見てびっくりしました。チーズはおいしかったです。(メンデー)

### 初めて過ごす外国人留学生との一週間

船岡 実希 (印西東) 留学生 ティオ・スー・エン (マレーシア) 愛称 スー

“私はマレーシアのティオスーエンです。よろしくお願ひします。”と、とても嬉しそうに駆け寄って来てくれた彼女との最初の出会いから一週間。こんなに早く過ぎると感じた一週間はありませんでした。

このふれあい交流のプログラムは小学生からお年寄りまで幅広い世代の人達と交流が出来るようになっていたので彼女にとって大変貴重な体験だったと思います。いつも帰って来たらその日の交流内容について話してくれました。特に子どもが好ましく、小学生交流で万華鏡を作ったりゲームをしたりした事がとても印象に残った様でした。フリーの時にお茶のお稽古に連れて行くと、高校生との交流の万葉茶会で教えてもらった作法を覚えていたらしく、飲み終わったお茶碗の淵を指で拭いた時には感心しました。また、ちょうど浴衣の着付け教室があって連れて行くと、先生の言われた通りにひもや帯を結んでいくのですが、初めてとは思えないほど上手に着ることが出来、満足そうに喜んで写真を撮ってもらっていました。食べ物に関しては全くといっていいほど問題がなかった事が本当に幸いでした。いつも“美味しい!美味しい!”とよく食べてくれました。ピザとプリンと一緒に作った時には、生地をこねるのに“もういいかな?”“まだかな?”オープンに入れてからも“焼けたかな?”“まだかな?”“焼けたかも。”“もういいかも。”と語尾の“かな”“かも”は先生が教えてくれない

日本語と気に入ったらしく連発して嬉しそうに使っていました。もちろん出来上がったピザもプリンも美味しく出来てまた嬉しくて写真を撮っていました。近所の方や、友達も家に来てくれてバーベキューをしたりお喋りをしたりもしたのですが、彼女が明るい性格でとても良い人柄だったので皆から“スーちゃん、スーちゃん”と慕われ、また来てくれた方も彼女に会えたことをとても喜んでくれ、“うちもホームステイの受け入れしてみようかしら。”と言う方もいました。このふれあい交流“いなみ野の里”のプログラムに参加できて、彼女に会えて本当に嬉しく国際交流協会の方や役場の担当の方には本当に感謝しています。これからこのようなプログラムや国際交流のお手伝いが出来ればと思っています。

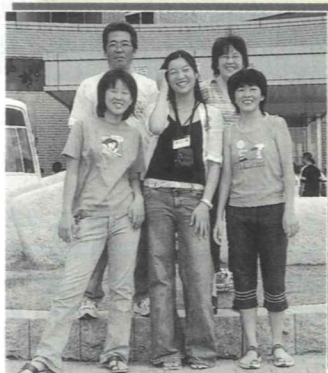


### 背の高いデニスとの一週間

大前 和美 (国岡) 留学生 ウー・デニス (オーストラリア) 愛称 デニス

ホストファミリーをするようになって3年目の今年は、オーストラリアからのデニス我が家に来て来ました。初めてデニスに会った時一番思ったことは「ワ～背が高い!」でした。それからの一週間は一才違いの長女ととても仲良くなり夜遅くまでテレビを見、色々な話をし、又稲美町内へサイクリングをし、プールに行きと忙しい毎日を過ごしていました。その間オーストラリアの事、又中国語で名前を覚えてもらったり、そして知らなかった稲美町と一緒に発見したりと

多くの事も教えてもらいました。日本の食事も食卓に並んだ物は一応トライしていました。ごはんにはマヨネーズやごまドレッシングをかけて食べるのは驚かされました。1日～8日までの1週間おらかなオーストラリアンのデニスとすごせて我が家にもぎやかで楽しい夏の思い出ができました。これから5年間日本に滞在するデニスともっともっと楽しい思い出を作っていきたいです。



### バスカと出会って

出来 比砂子 (相の山) 留学生 トゥムル・バーサンジャブ (モンゴル) 愛称 バスカ

見知らぬモンゴルからバスカを迎え、改めて日本に住んでいる便利さを味わいました。モンゴルの人の多くが、日本に行ってみたくて思っていることや、相撲の朝青龍が外国人という偏見せず親身に接していることをモンゴルでほめていたことを聞き、親しい国なのだと思われしくなりました。夏休みになると、ウランバートルから田舎のあの遊牧民の沢山住んでいるところに行くと言っていました。親戚宅、そしてその隣人が、本当に親切に迎えてくれ、足のない時には、馬に乗って帰らなさいと、見ず知らずの人に馬を貸してくれると言っていました。日本食のベースになる「米」を紹介し、ホームステイの間ほと

んど御飯を主体にした食生活をしてみました。これから、日本での留学生活の中に、御飯を主体にした生活をするのも良いですよと、推薦してみました。先日、TELしてみますと、自分で御飯を炊いていると聞き、うれしく思いました。異文化の中で生活したバスカのホームステイは、家族共々忘れられないほど感慨深い思い出です。



### 初めてのホストファミリーを経験して

坂元 弥生 (上新田) 留学生 ファグドルジ・オユンジャルガル (モンゴル) 愛称 オユナ

娘の以前からの希望で決断したものの、オユナとは私という時間の方が長く、失敗だらけで戸惑いながらも、案外普通に楽しく生活ができたのは、彼女の飾らない素直な人柄のお陰と感謝しています。家でのルールやフリータイムの過ごし方などまだまだそこまで余裕がなく、実家の前の海で足をつけたことや、花火大会や100円均一に行ったぐらいが精一杯でしたが、彼女はとても喜んでくれたように思います。家の中では、モンゴルの料理をみんなで楽しく作ったり、日本の料理にもいろいろ興味を持ち、ほとんどのものは食べてくれました。主人も「大昔は、モンゴルと日本は大陸が続いていて…」と雑学をフルに発揮していましたし、祖父母も手作りのお手玉を持って遊びに来てくれ盛り上げてくれました。オユナの影響を受け、私も心が広がった気分になり、テンションはいつもより少し高くなりましたが思ったほど疲れることもなく、

逆に片づいた部屋で優雅に生きた勉強ができました。私たちが貴重な体験をさせていただき、全てのことに感謝と、こんなわが家に来てくれて有難うの気持ちでいっぱいです。日本の暑さにもめげず、毎日の忙しいスケジュールをこなし、大変だとは思いますが、少しでも彼女の役に立てれば幸いですし、留学生の皆さんが元気で、ますます活躍されますことを心から祈りたいと思います。貴重で有意義な1週間を過ごさせていただき、本当にありがとうございました。



# ふれあい交流 “いなみ野の里” を体験して

### 「Hakeemの日本語へのトライ」

中谷 直之 (印西南) 留学生 ハキーム・エマヌエル (ナイジェリア) 愛称 ハキーム

今年で3回目となるホームステイイベント。だんだんと我が家の「夏の風物詩」となってきた。さて、いよいよ実生活の開始。まず外国人には「察する」という事を理解出来ない人もいるので、キチッと生活上のルールを伝えるが、その中でも「7:00起床厳守」には、少しびっくりした様子。だが、最後まで寝坊する事なく朝食を共にする。食事メニューも刺身以外の和食でOKで、こちらも気を良くしてナイジェリア料理にも挑戦した。自宅屋外バーベキューサイトでの食事初体験らしく、タイ料理にも舌鼓。



そして、普段とあまり変化がない生活を過ごしていくうちに、彼の発する日本語単語が少しずつではあるが増えだした。日本語のスキルアップという当初の目標に対して、中谷ファミリーが微力ながら貢献できたかどうかHakeemに聞いてみたい。外出も淡路・岩屋を往復したのみで、いわゆる観光地にも出かけなかった。彼には少し可哀想かなとも思ったが、“日本のライフスタイル”を十分に体験してもらおう事を優先した。そして言い付けた家事手伝いも淡々とこなしてくれ、子どもが、また1人増えたように感じた。何かをしてあげると、必ず「ありがとうございます」と礼儀正しい言葉。体はでかいが、優しい男の子。Hakeem。この1週間は、ボディランゲージ、英・日単語と筆記による原始的な会話ですごく時間はかかったが、とても印象的な7日間。

Hakeemの日本語上達度を確認するために、また稲美においてよね!「毎度、おおきに!!」と言いながら…

### モンゴルからようこそ

榎 時子 (国岡) 留学生 アマルバートル・シーレン (モンゴル) 愛称 スィカ

スィカさんは素直で礼儀正しくとても愛情いっぱい育てられた様子を感じられます。日本語を大変良く理解し会話も上手で日本に来て4ヵ月余り、本当に努力していると感心しました。スィカはとても良く気が付き、料理を手伝ったり、自分の部屋の掃除もして、毎日お父さんにレポートを見てもらい可愛い娘がもう一人出来るととても幸せです。交流会で万華鏡、お手玉など持って帰った時は、「オーきれい」「オー」ともう大変。お母さんとお手玉をして大はしゃぎ。大池祭りでは念願の浴衣を着て大喜び、スィカは浴衣が良く似合い嬉しくて写真を一杯写しましたネ。本当に楽しい8日間をありがとう。



メンデー いなみ野の里での一日

その日は私のいなみ野の里の五日目でした。お父さんの夏休み、一時間くらい車で行って海の近くに降りました。そして近くにある所に魚を釣りに行きました。それは釣りほりだったけど、私はそのように大きい魚を釣ったことがないから、とてもよかったです。その後、昼ご飯をたべて大鳴門橋という所へうずしおを見に行きました。そこで船に乗りました。今までに見たことがなかったので、びっくりしました。あとで私たちはお母さんの両親の家に晩ご飯を食べに行きました。その家は日本の伝統的な家と同じでした。それからその家の客間という部屋に入ってとてもびっくりしました。そのような部屋を私は前に映画で見たことがあるだけでした。晩ご飯の後、いろいろな話をして日本の碁や将棋などをしました。おもしろくてたのしい日だったからとてもよかったです。

オス 一期一会の出会いに感謝!

私のホストファミリーは娘三人がいる家庭だから、特に、男の子がホストファミリーをすることを喜んでくれました。娘の中に、長女は成熟な萌、次女は明るい姫、三女は小さくて泣き虫で、可愛い笑です。両親は優しく、親切で、とても私のことを可愛がってくれました。毎日、私の活動が終わった時、ホストファミリーはいつも笑顔で迎えてくれました。私の日本語は上手ではないので、子ども達の喋ることが速過ぎるために、理解するのに苦労しました。でも、子どもたちの身振り手振りで何とか理解することができました。「今度会うときは娘と笑の喋る意味が分かるようになりたい!」と思いました。時々煩わしいことがあるけど、笑の純真な笑顔で癒されました。一週間私とホストファミリーは本当の家族になれました。これからもずっと私は中野家の息子です。このホームステイ・プログラムはすごく楽しかったです。一週間は早く過ぎてしまいました。色々な日本の特別なことが体験できて、稲美町の人になれた気がしました。「一期一会」はこのホームステイの一番良い表現の方法です。この体験は、二度とすることはできないでしょう、一生忘れることはできないと思います!

スー 稲美町、私の第二の故郷

光陰矢の如し、あっという間に、一週間のホームステイが終わった。私はもう稲美町を離れたのに、ここはまだそこにある。一番良かったのはホストファミリーと一緒にいる時間だ。てんぷらやピザを作り、バーベキューをしたのはいつまでも私の記憶に残ることだ。なぜなら日本に来てから、私にとって初めて家族のような感じがしたからだ。てんぷらを食べながら、お父さんと中国のことについてたくさん喋ったから、食べる速さはちょっと遅くなったので、皆がいつも笑っていたことは今まだ覚えている。その時、私はまるでマレーシアの家へ帰った気がした。実に幸せだった。それは数えられない経験の中の一つの例にすぎない。私はこの美しい町へ行って、みんなと会ったことを「縁」と思う。稲美町はいつまでも、私が日本にいる時の第二故郷だ。素晴らしい時間を過ごすことができ、とてもありがとうございました。

ハキーム 稲美町で一番のホストファミリー

この一週間は短かったです。しかし楽しかった、おもしろかったと思います。なぜなら、たくさん色々なことを習ったからです。例えばゲームやわらじ等、稲美町に住む人々は本当にいい人です。学生はいい学生だと思います。このホームステイプログラムはいいプログラムだと思います。私の家族は稲美町では一番だと思います。今、どんどん日本人になっています。まいとおおきに。

一期一会 稲美町のみなさん ありがとうございます!

アン おもしろい一週間

稲美の里は本当にきれいな田舎のまちです。静かなまちは大好きだから、この一週間はすばらかった。毎日、日本語だけでした。妹、弟、お母さんと、お父さんと話しました。たくさん日本語を憶えた。日本語少し上手になりました。毎日、いっぱい交流があり、どれもおもしろかったです。国際交流協会の人はとても親切でした。毎日いい気持ちになりました。本当にありがとうございました。もう一度、お願いします!

バスカ やさしい家族

稲美町の親切な家族といっしょに住んでいた、この一週間はとてもおもしろくて、楽しかったです。その一週間は、とても短いけど、さまざまな人と会い、日本の文化と普通の生活についてよく教えてもらいました。わたしのホームステイは、出来の家族です。家族の四人は、みんなやさしくて、親切です。わたしはしんたろうさんとさえこさんという友だちになりました。お父さんとお母さんはいい人です。家族はわたしを連れて映画館で新しい映画を見ていろいろな物を教えました。稲美町の人たちはとてもやさしくていい人だと思います。初めて日本で里に行きました。前から日本の中で里にいたかったのでもっとおもしろかったです。いまあの時楽しかったことをいろいろ思い出しています。

サムウェル 色々な交流があった!

色々な物を見て楽しかったです。私達は姫路城と中学校、小学校、老人会と農家見学に行きました。ホストファミリーはいい人です。食べ物はいっぱいありますが、ありがとうございます。稲美町の人々、小学校、中学校、老人会、農家見学等、本当に楽しかったし、おもしろかった。ありがとうございます。又、いつか。

オユナ 楽しい夏休み

バスをおりてから今までいろいろなすれられない行事がありました。私のホスト家族はとても親切な人びとです。それに、やさしいです。8月1日に、家族の娘といっしょに花火を見に行きました。すごい花火を見ました。特にその日に、私たちは浴衣を着たので、本当に楽しかったです。家族のお母さんは毎日朝、昼、晩とご飯をつくってくれます。全部おいしいです。私はその料理を食べながらお母さんといろいろ話をします。食事の中に私が初めて食べたものがたくさんあったから、日本の料理の資料とか、作り方、食べ方について話しました。それに日本の文化、生活についても話しました。私はひまな時、家族といっしょにかいものしたり、テレビを見たり、お礼を言ったり(なりました)しました。はじめは、私はそんなによく話せませんでした。今は、私の日本語は進歩したと思います。みなさんに本当にありがとうございました。とくに坂元さんの家族にありがとうございました。

スイカ みなさんありがとう

稲美町でホームステイをして、一週間すごく楽しかったです。ホストファミリーとフリータイムがあるので、日本について学びたいことや行きたい所などを考えて、ホストファミリーに言えばいいです。今回は、ホームステイを10人申し込みましたが、したい学生が多かったです。だから、稲美町の人々に「来年、今年より多い学生をホームステイをさせてください」と言いたいです。最後に、その一週間でたくさんのお話を聞きました。帰った後、すぐわかりました。稲美町の三万人のいい人たちにありがとうございました。また会える日までね。

デニス ホームステイしてよかった!

日本人と実際に生活したり、日本語を練習したり、田舎の暮らしを経験したりするために稲美町のホームステイを申し込みました。特に楽しくさせた事はホストファミリーです。私の家族は両親も十代の娘もお婆ちゃんもいる自分の家族と似ている大きい家です。日本に来てからずっと一人で住んでいた私にとってこんなにぎやかな家族は家の感じをあたえました。娘さん達と買い物したり、皆一緒に食事をしたり、テレビをみたりするのは普通の事でも本当に楽しかったです。また、姫路城や茶道会などから日本の事をたくさん学びました。様々な触れ合い交流で友達ができ、このような一期一会の出会いを大切にしようと思っています。第二実家のようになった稲美町には絶対再び帰ろうと思っていますよ。

押忍! オス!

中野 奈津子 (国岡) 留学生 チャン・オースワルド (オーストラリア) 愛称 オス



オーストラリアから来た、チャン・オースワルド。12才まで香港で住んでいて、勉強をする為に、オーストラリア、日本とやって来たオス! 広東語、英語はもちろん、日本語もとても上手。会話に困った時は、漢字でバッチリ! 読めても書けない漢字があったりして、少し恥ずかしい思いもしました。オスは、書道も、ピアノも、歌も上手。歌は日本の歌謡曲もたくさん知っていて、一日中歌っているから覚えてしまいました。香港の歌も聞かせてもらい、「音楽を通しての交流が一番、簡単で早いなあ」って思いました。3人の娘とはチャンバラをしたり、御人形で遊んだり、ピアノの練習の時は「俺は先生」と言ってつきあってくれたり、英語、漢字など楽しく教えてくれました。また主人とは「男チーム」と言いながら、同じ物を選んだり、同じ事をしたりして、主人も本当に嬉しそうでした。私には「お母さん、お母さん」と優しい笑顔でいつも話しかけてくれるオス。優しく明るいオス。「俺は中野家の息子です」って言ってくれたオス。本当に私達にはもったいないくらい、素晴らしい息子。いつでも時間のある時は、帰って来てね。私達の息子になってくれて、本当にありがとう。

2度目のホストファミリー

大向 佐都子 (稲美野荘園) 留学生 ローレンス・サムウェル (ナイジェリア) 愛称 サムウェル

今回は2度目のホストファミリーでした。初めてホストファミリーをした昨年とは異なり、今年は肩の力をぬいて、サムウェルを迎えることができたように思います。サムウェル・ローレンスはナイジェリア出身の明るく陽気な18才の男の子でした。「ナイジェリア? アフリカのどこ?」といった具合で、彼の国については何の知識もなかったため、サムウェルが我が家へやって来た時、少々とまどったのは事実です。さて、サムウェルの日本語は「流暢」とはほど遠いものでしたが、それでも彼と会話していく中で、ナイジェリアがアフリカの中では比較的豊かな国であること、アフリカで最も人口の多い国(1億人強!)であること、食生活が日本とは全く違うこと、スポーツ=サッカー等々知ることができました。姫路書写山の円教寺へ行ったくらいで、あまり遠出もせず、たこ焼きやギョーザと一緒に作ったり、ピアノをひいたり、「千と千尋の神隠し」のビデオを見たり、日本対中国のサッカーをテレビで観戦したり、子どもの友だちを招いてホームパーティーをしたり、花火大会に行ったりといった平凡な毎日の中で、彼が少しでも我々日本人のこと、また日本の生活について理解を深めてくれたのであればいいなあと思っています。半年後、一年後、彼の日本語がどれほど上達しているのか、そしてどんな青年へと成長していくのか楽しみにしています。この夏もすばらしい出会いができましたこと、お世話して下さった皆様に感謝申し上げます。お世話して下さった皆様へ感謝申し上げます。ありがとうございます。



初めてのホストファミリー

神足 友香 (六軒屋) 留学生 ラドウレスク・アナ・マリア・デスピナ (ルーマニア) 愛称 アン

今回初めて留学生の受け入れをさせていただきました。5才と2才の子ども達はもちろん英語力のない私達でできるのかと不安に思いながら迎え入れました。

しかし日本語も上手だったのでおどろきました。フリーの日は、銭湯、藍染め体験、盆おどりなど日本独特の文化と一緒に体験しました。一週間貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



わが家にモンゴルの風が吹いた8日間

大西 喜代江 (六分一山) 留学生 ニャンダバ・メンドバヤ (モンゴル) 愛称 メンデー

メンデーは、モンゴルから来た19歳の青年です。事前にもらった資料では「日本語・英語がすこしできる」ということだったので心配していたけど、メンデーとの会話は、日本語の中に時々、英語の単語が混じるといった感じだったので、ほっとしました。歓迎会でも、家の長男と、次男と年齢が近い事もあって和やかに話が進んで、私の緊張も少しずつ解けていきました。2日あったフリータイムのうち1日は、明石大橋を渡って淡路島へ行き鳴門のうず潮を見ました。モンゴルは海がない国なので、メンデーにとって海はとも興味深かったようで、特に、鳴門の渦潮がさまざまに形を変えながら浮かんで消えていく様子に入っていました。家に帰ってから今日は楽しかった。ありがとう。」と何度もお礼を言ってくれました。メンデーは、いつも夜遅くまでいろいろなことを話してくれました。モンゴルといえば、ゲルと朝青龍。メンデーは、「みんなそういう。モンゴルには何も無いから。」と言っていたがその会話の中から、母国や家族をとても大切に思っている様子が伝わってくるのです。また、メンデーは、出した料理をおいしいと言って残さず食べ、3男の誕生日に、おこづかいでケーキを買ってお祝いしてくれた心のやさしい青年でした。ありがとう、メンデー。とても嬉しかったよ。他にも、バーベキューをしたこと、ボーリングをしたこと、甲子園の開会式を見に行ったことなど、メンデーと一緒に過ごした楽しい思い出はつきません。メンデーを迎えるためにきちんと片付いていたリビングが徐々にいつもの状態になっていった頃には、メンデーとの8日間は終わりに近づいていました。最後になりましたが、この素敵な出会いをお世話していただきました国際交流協会の皆様、楽しい8日間を本当にありがとうございました。

